

2 流域の特性

(1) 自然環境特性

1) 地形・地質

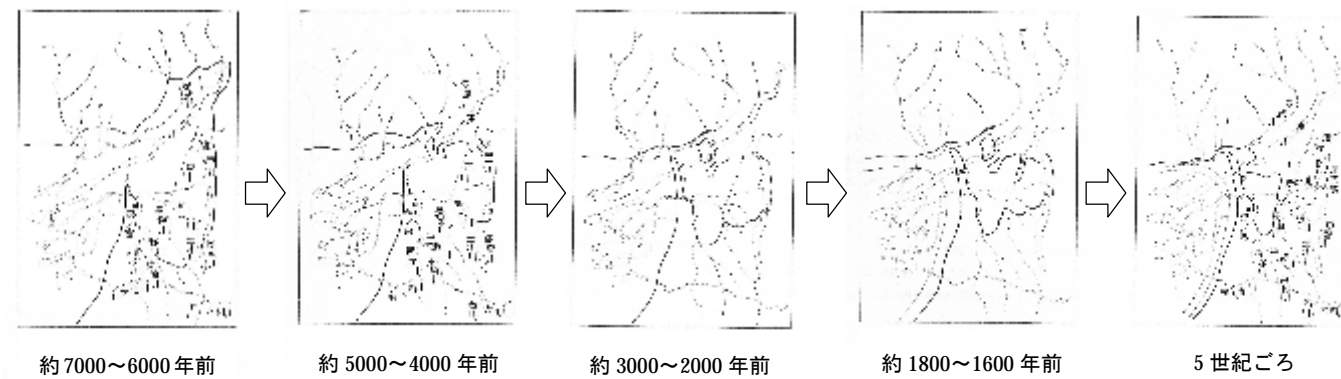
地形は、南から延びる洪積台地(上町台地)によって二分された大阪平野西側低地部に位置し、淀川等が形成したデルタ地帯で近世中期頃に概ね形成されたものです。海岸部一帯は、古くからの埋立地で、慶長の末(17世紀初期)から新田開発が始められ、延宝6年(1678年)の「中島大水道」の整備、明治11年のデ・レークによる神崎川の付け替えにより、ほぼ現在の地形と河道網が形成されました。

地質は、第三紀鮮新世末から第四紀更新世中期の大阪層群、更新世中期以降の地殻変動と気候変動が活発な時期に形成された上部洪積層と沖積層が重なっており、これらは大阪湾で数百～数千m程度堆積しています。

当該ブロックを含む大阪市の地盤沈下は昭和3年の水準測量の結果、その現象が指摘され、昭和9年の室戸台風による甚大な高潮被害によって注目されるようになりました。昭和10年から昭和17年頃は産業が発展し、地下水需要が増加した時期で、地盤沈下も激しく、年間沈下量の最大は20cmを越えました。

昭和18年から昭和24年頃の戦争末期と戦後の混乱期にかけては、地盤沈下はほぼ見られませんでした。昭和25年頃からは経済成長とともに沈下が激しくなり、昭和35年頃のピークには年間20cm以上の沈下量を記録しました。昭和36年9月の第二室戸台風時には、地盤沈下が浸水被害の大きくなる一因となりました。

大阪市では、すでに地下水の採取規制や工業用水道の建設などの対策を講じていましたが、その結果が現れたのは、昭和38年以降のことで、その後、地盤沈下は急速に鈍化しました。



近世中期の河川状況

出典：大阪の川 - 都市河川の変遷- 大阪市建設局監修

出典：大阪地盤沈下対策誌 昭和47年10月
大阪地盤沈下総合対策協議会

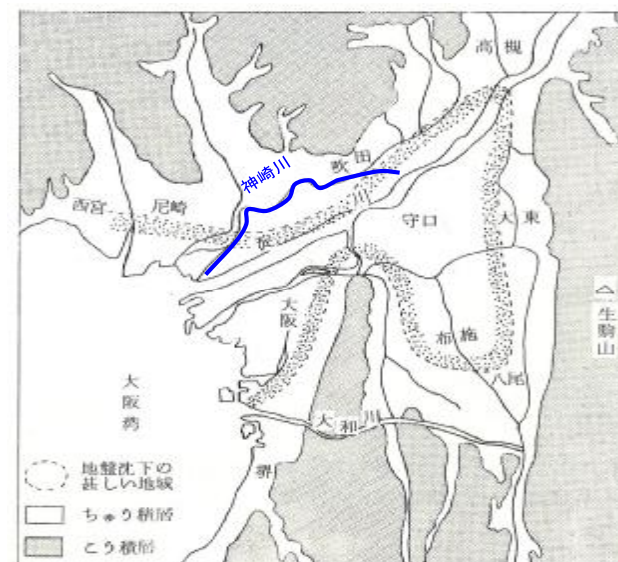


図 1.6 沖積層堆積分布図

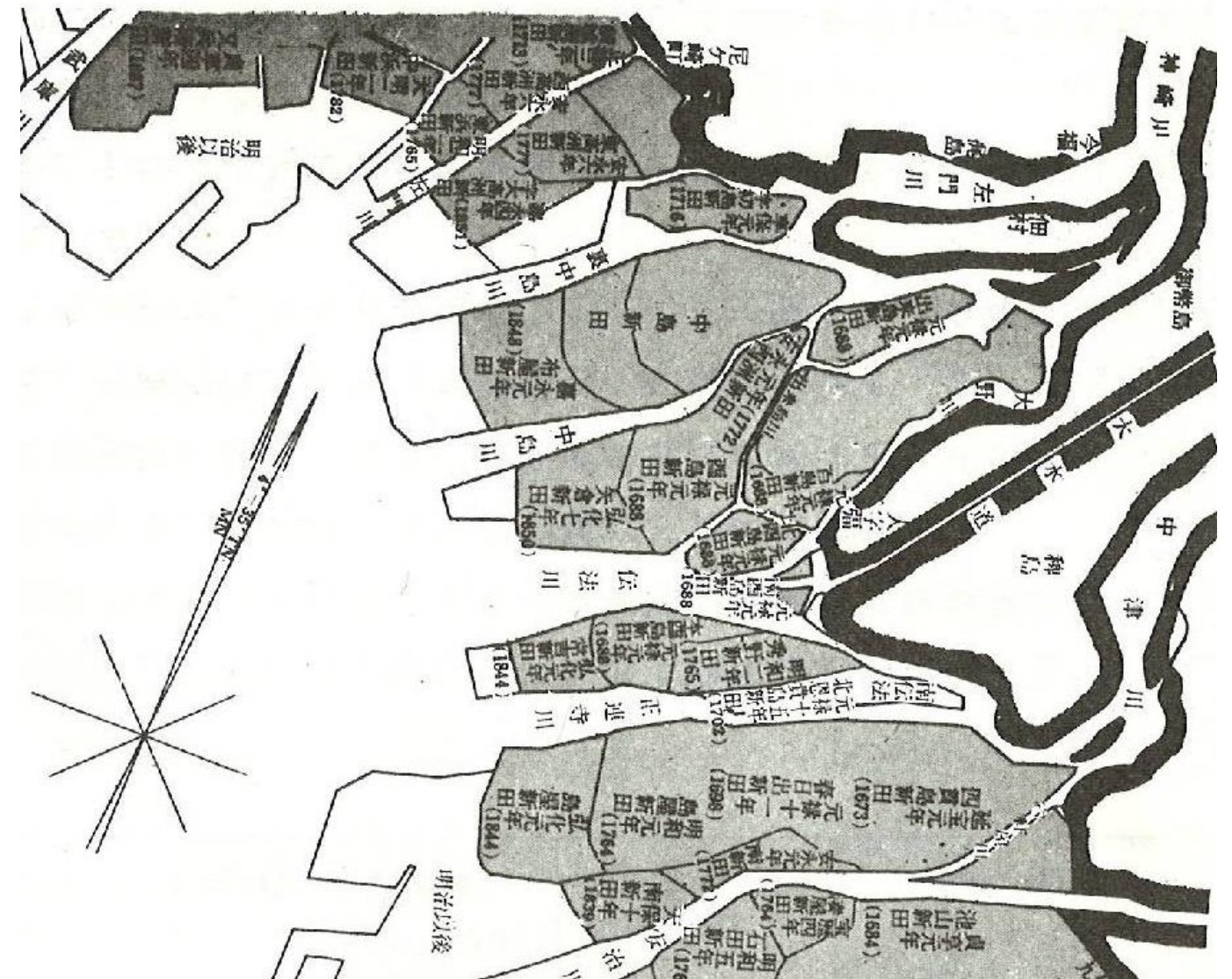


図 1.7 神崎川下流ブロック周辺埋立地

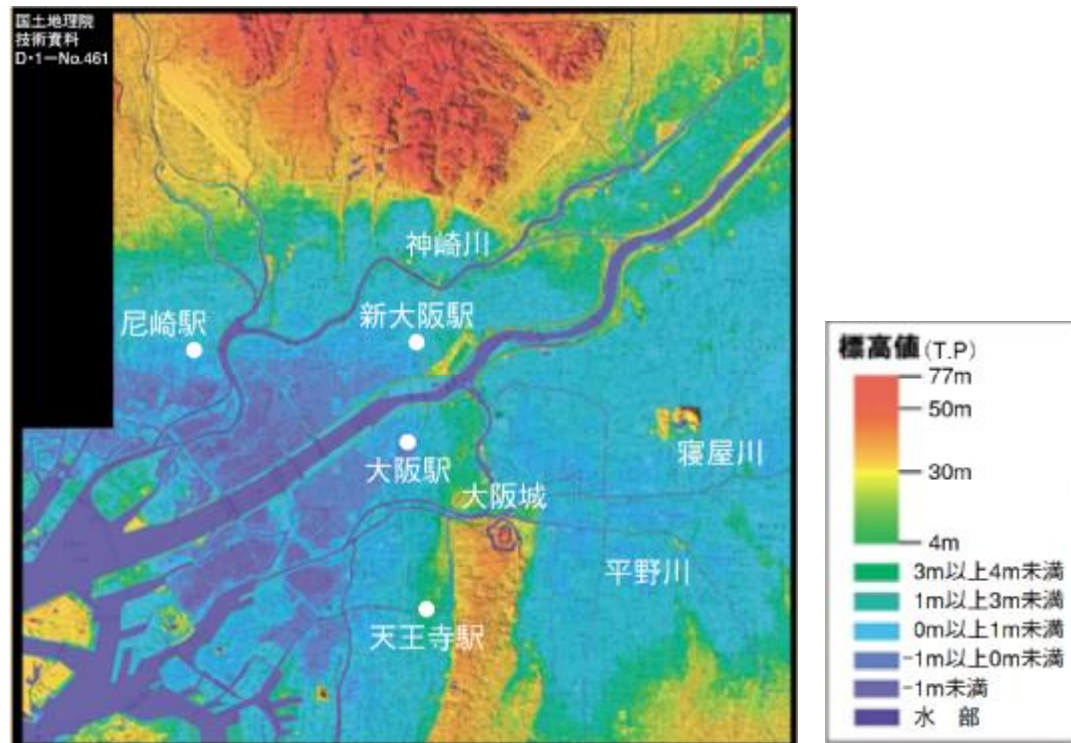
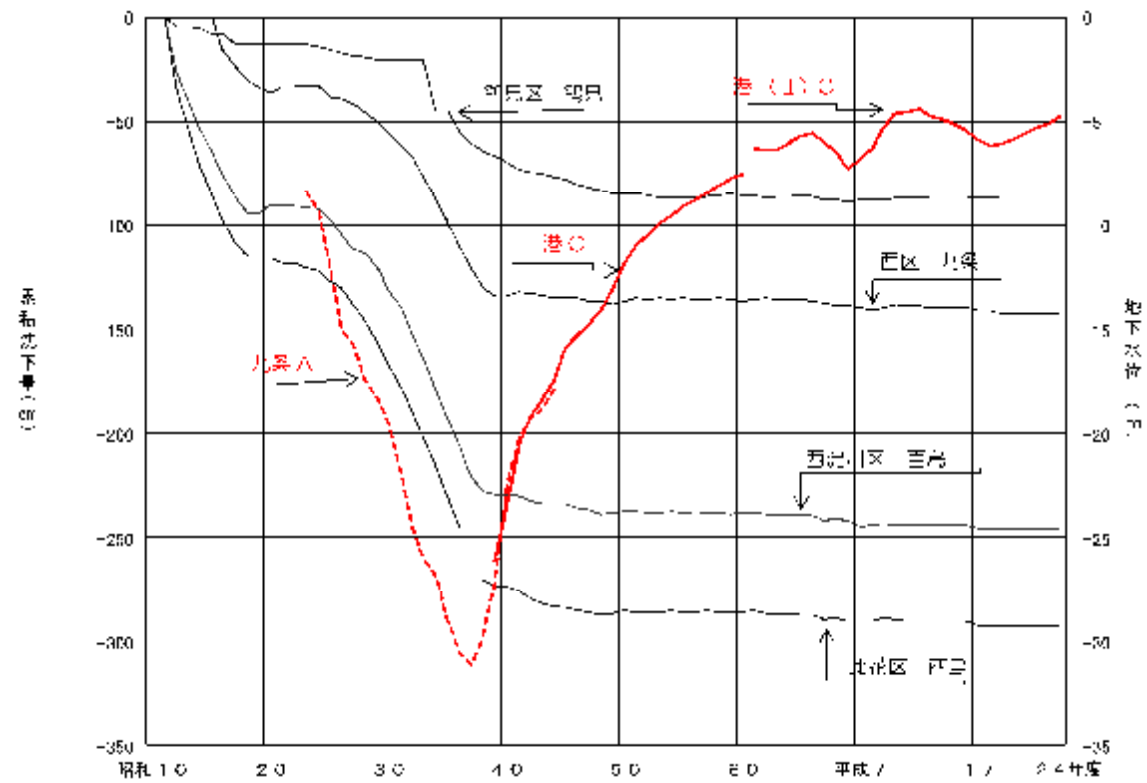


図 1.8 近畿地方の標高

出典：国土交通白書 H19 年度版より、(資料) 国土交通省国土地理院



※地下水位は、観測井の管頭から地下水面までの距離

九条 A 観測井は昭和 45 年で、港 C 観測井は昭和 60 年で観測中止

図 1.9 大阪市内における地盤累積沈下量

出典：平成 25 年度版 (2013 年) 大阪市環境白書

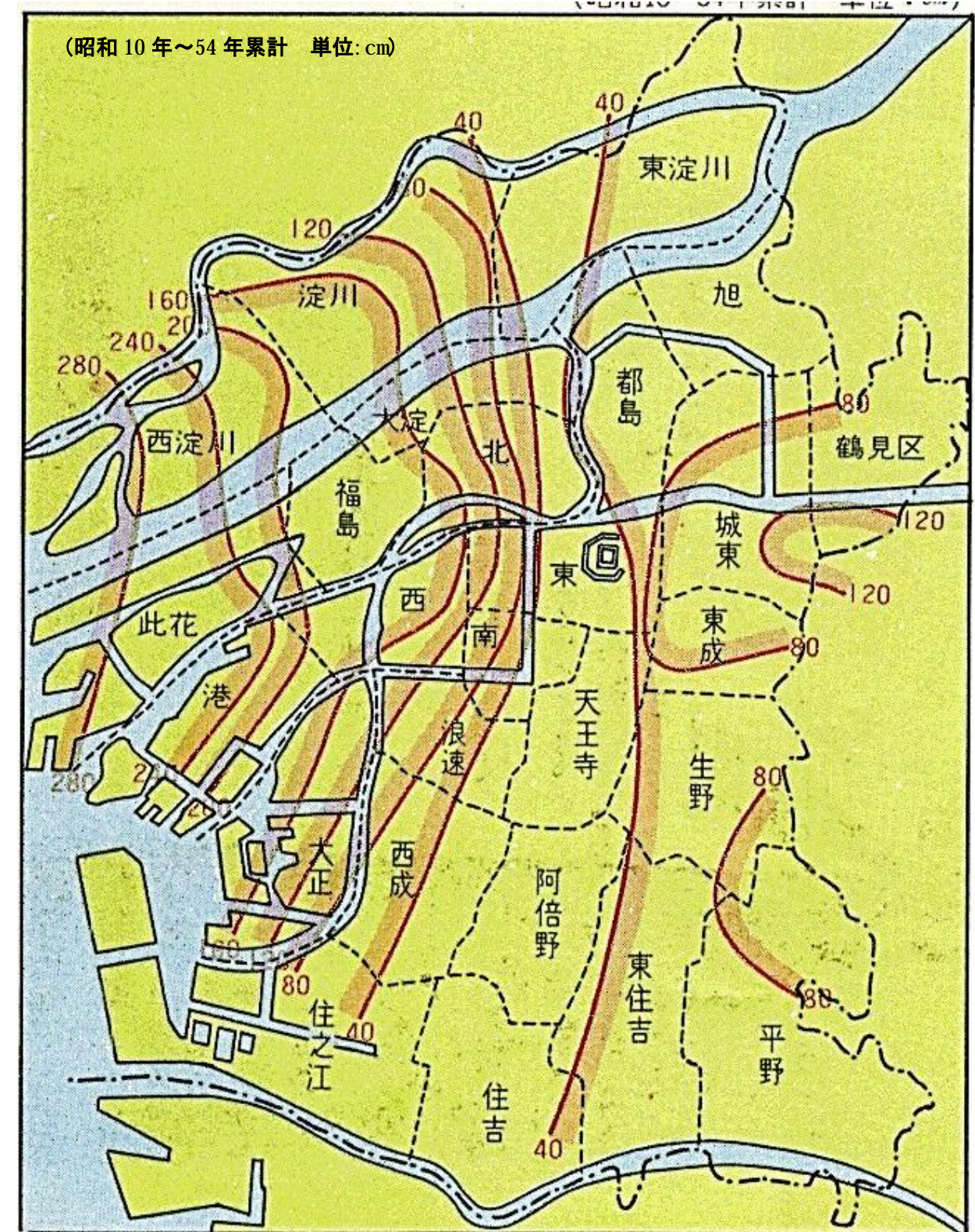
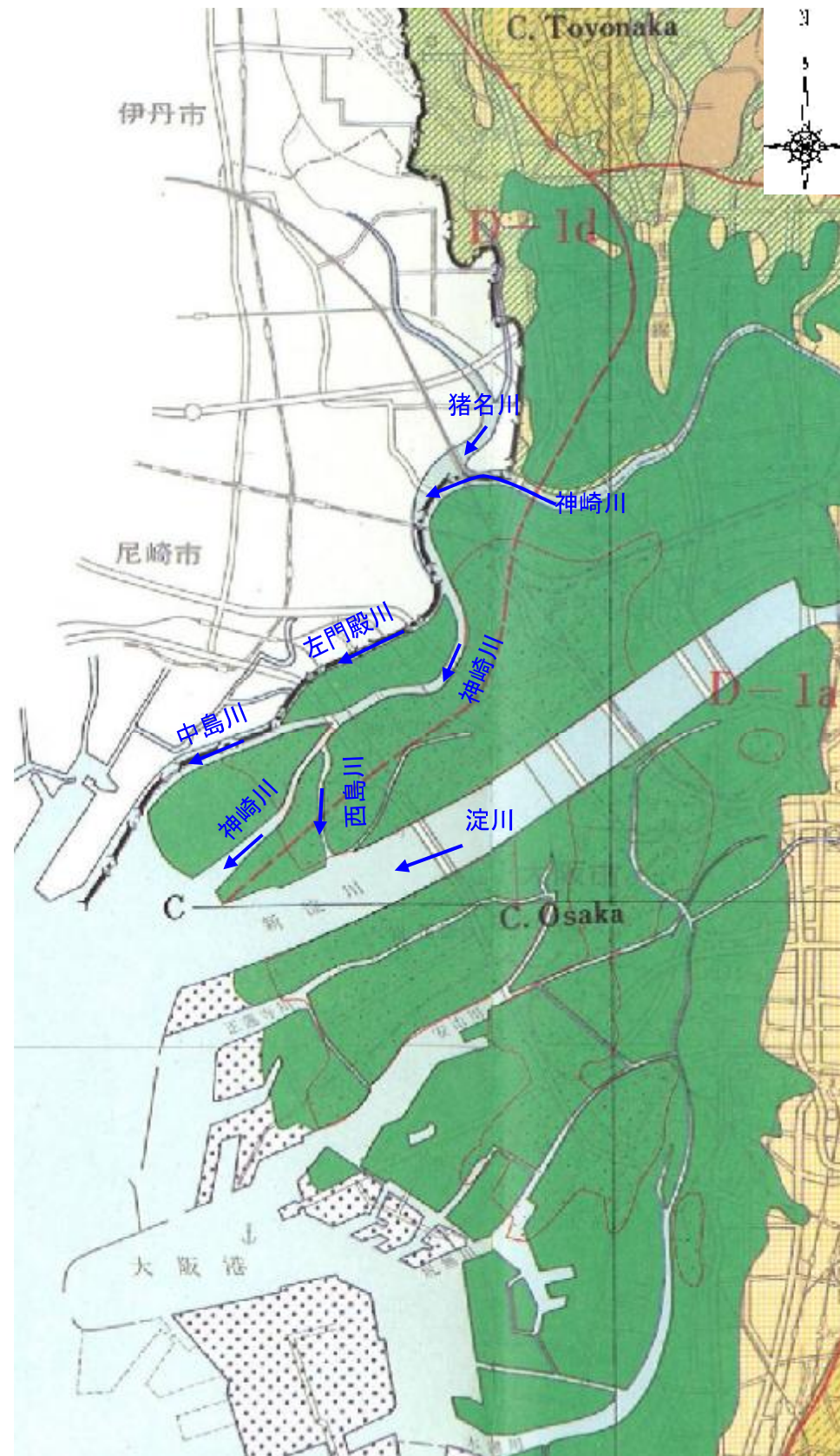


図 1.10 大阪市内の地盤沈下等高線図

出典：大阪高潮対策事業概要 大阪府



凡例 Legend

Hillylands, Uplands and Terraces



大起伏丘陵地
Larger relief hill lands

起伏量100~200mの丘陵地で、北摂山地内陸盆地にみられる花崗岩類を主とするものと高槻丘陵や泉北丘陵にみられるもののように山地や山麓地に接し、大規模下部層よりなるものがある。



小起伏丘陵地
Smaller relief hill lands

起伏量100m以下の丘陵地で、府下の大部分の丘陵がこれにあたる。千里丘陵、富田林丘陵、泉北、泉南丘陵などでは広大な面積を占めている。



段丘(高位)
Upper terrace

府下の段丘については、高・中・低位の3つに分類されている。高位は信太山台地や丘陵部に点在してみとめられる。中位段丘については上町台地が、低位段丘については兵庫県の伊丹段丘が模式となっている。しかし、各段丘についての識別には、やや問題があり、今回は中・低位の段丘を一括して取扱い、あえて分けなかった。大和川以南の泉北・泉南台地では広く段丘が展開している。



段丘(中・低位)
Middle and lower terrace



低地
Lowlands

扇状地性低地
Fan

扇状地性低地として典型的なものは旧大和川扇状地で、柏原を中心として同心円的な地形がみられる。他は河川の氾濫原というべきものが大部分である。



三角洲性低地
Delta

大阪湾に面する西大阪平野に最も広くみられる。東大阪平野もこれに属するが、旧大和川の河川の流入により自然堤防が発達し、不規則な分布をする。



自然堤防・砂洲
Natural levee and sand dune

東大阪平野では、旧大和川およびその支川がみられ、自然堤防が河川に沿って発達している。また、その一部は天井川を形成している。一方、上町台地の西部では砂洲が等状に発達し、吹田付近でも淀川の砂洲の一部としてかなり広い面積を占めている。

副分類 Sub classification

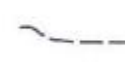


埋立地
Artificially filled area

埋立地は、淀川河口付近、木津川付近に見られるが、これらは江戸時代から徐々に埋立てられ、明治時代にまでつづいている。一方堺・泉北では、戦後、府の埋立事業によって実施されたので、その面積は大きく、堺、泉北臨海工業地帯を形成している。また、岸和田や泉佐野のような南部でも埋立地が分布している。
M18-22陸軍参謀本部測量水面(仮製1/2万による)を埋立たもの



府県界
Boundary of prefecture



主要分水界
Main divide



山地の緩斜面
Gentle slopes on mountains



構造性急斜面
Tectonic steep slope



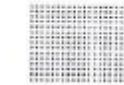
T.P. 0m 以下
Contour line of sea level
(大阪地盤沈下総合対策協議会S46による)



地すべり防止区域
Landslide
(建設省)



地すべり防止区域
Landslide
(農林省)



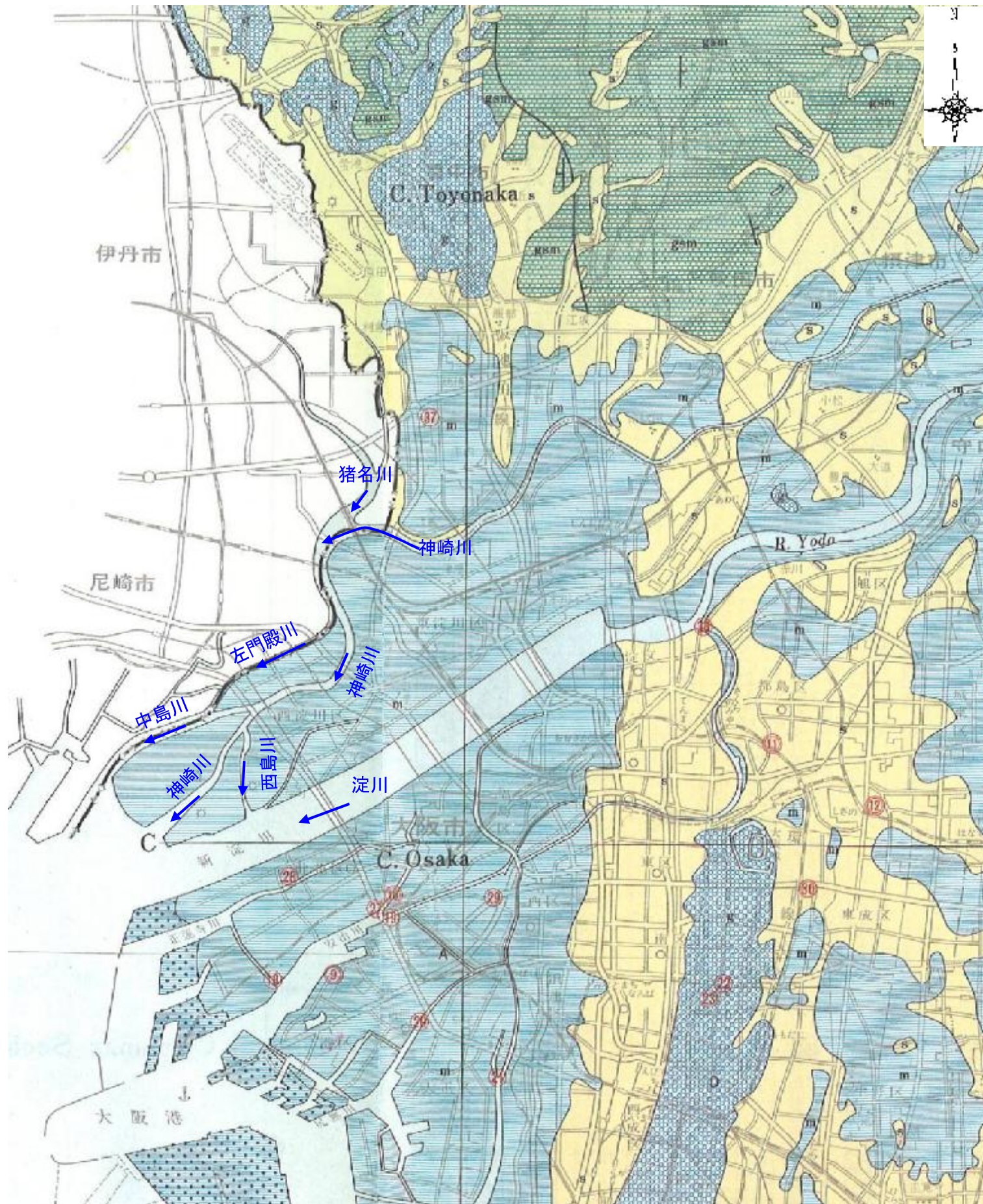
人工改変地
Artificially deformed area

地形地域区分

A. 山地	A-I. 北摂山地	A-Ia. 北摂山地 A-Ib. 能勢山間盆地群	
	A-II. 生駒、金剛山地	A-IIa. 生駒山地 A-IIb. 生駒西麓地 A-IIc. 生駒盆地 A-IId. 大和川河谷 A-IIe. 二上山地 A-IIf. 葛城山地 A-IIg. 金剛山地	
	A-III. 和泉山地		
B. 丘陵地	B-I. 北大阪丘陵地	B-Ia. 千里丘陵 B-Ib. 高槻丘陵 B-Ic. 箕面丘陵	
	B-II. 枚方丘陵地	B-IIa. 枚方丘陵 B-IIb. 長尾丘陵	
	B-III. 南大阪丘陵地	B-IIIa. 富田林丘陵 B-IIIb. 河内長野丘陵 B-IIIc. 河南丘陵 B-IIId. 嵯山山地 B-IIIf. 石川低地 B-IIIg. 美原台地	
		B-IV. 泉北丘陵地	
		B-V. 泉南丘陵地	B-Va. 泉南丘陵 B-Vb. 神於山山地
C. 台地	C-I. 上町台地		
	C-II. 信太山台地		
	C-III. 泉南台地		
D. 平野	D-I. 大阪平野	D-Ia. 西大阪平野 D-Ib. 東大阪平野 D-Ic. 淀川低地 D-Id. 猪名川低地 D-Ie. 堺・泉北臨海平野 D-If. 旧大和川扇状地	

図 1.11 地形分類図

出典：土地分類図(大阪府)昭和51年、日本地図センター、平成13年第2刷



未固結堆積物
Unconsolidated sediments

凡例 Legend

	礫 Gravel	<p>段丘礫層からなる。大阪府南部、北摂山麓、生駒西麓に分布する。分布高度により、高位段丘礫層と中・低位段丘礫層に分けられる。高位段丘礫層は厚さ5-10mで赤褐色の風化礫から成る。分布は信太山、千里丘陵北部、枚方市東部などに限られている。中位と低位の段丘礫層の区分には問題が残されているが、いずれも広い台地を作る。厚さ10m前後の中・大礫層で、中部に砂層やシルト層を挟む場合もある。この礫層は平野の地下にも分布しており、大阪市街地では天満層と呼ばれる支持層を作るものと見られる。(更新統後期)</p> <p>沖積砂層からなる。主に平野に分布しており、沖積粘土層を覆う。自然堤防、扇状地など微高地を作る。また、丘陵地や山間の谷底平野にも分布する。地盤としては下位の粘土層の分布に注意を要する。なお、垂直的分類図では支持層の深度15m以上の部分は泥層を主とする地域を含めた。(沖積統)</p> <p>主に沖積粘土層からなる。西大阪、淀川沿岸及び東大阪の平野部に広く分布する。大阪市街地では梅田層と呼ばれる海成粘土層で、厚さ20-30mに達するN値0-3回の軟弱層である。東大阪にも厚さ30m以上に達する軟弱層の分布が知られている。地盤沈下、地震災害等、問題の多い地盤を作る。(沖積統)</p> <p>丘陵地に分布する。大阪層群と呼ばれる地層で、泥、砂、礫の詳細な区分が行われているが、本図では縮尺の関係で、一括した。砂礫層は良好な地盤を作る。泥層もN値15-20回以上で、よく締っている。しかし、構造線に沿って急傾斜したり、破砕を受けており、粘土層の分布地では地すべりに注意が必要である。海成粘土層も含まれており、風化すると強酸性粘土となる。なお、垂直的分類図では海成粘土を採み、比較的粘土層の卓越する丘陵地を区分した。(鮮新統-更新統前期)</p>
	砂 Sand	
	泥 Mud	
	泥、砂、礫互層 Mud, sand and gravel alternation	

付加記号 Additional symbol

	埋立地 Artificially filled area
	走向傾斜 Strike and dip
	背斜軸 Axis of anticline
	向斜軸 Axis of syncline
	断層 Fault
	断面線 Locality of section line
	鉱泉 Mineral spring
	1-13 深層ボーリングの位置および番号 Locality and number of bore hole (Deep)
	1-40 浅層ボーリングの位置および番号 Locality and number of bore hole (Shallow)

図 1.12 表層地質図

出典：土地分類図（大阪府）昭和51年、日本地図センター、平成13年第2刷

2) 気候

神崎川下流ブロックの気候は、四季を通して温和で降水量が少ない瀬戸内気候区に属しています。
 大阪管区気象台(大阪)の昭和53年～平成25年の36ヶ年間の観測結果によると、年平均気温は16.8℃、
 年間平均降水量は1,303.8mmです。月平均降水量は梅雨期の6月が195mmで最も多く、次に台風期の9
 月が166mmです。

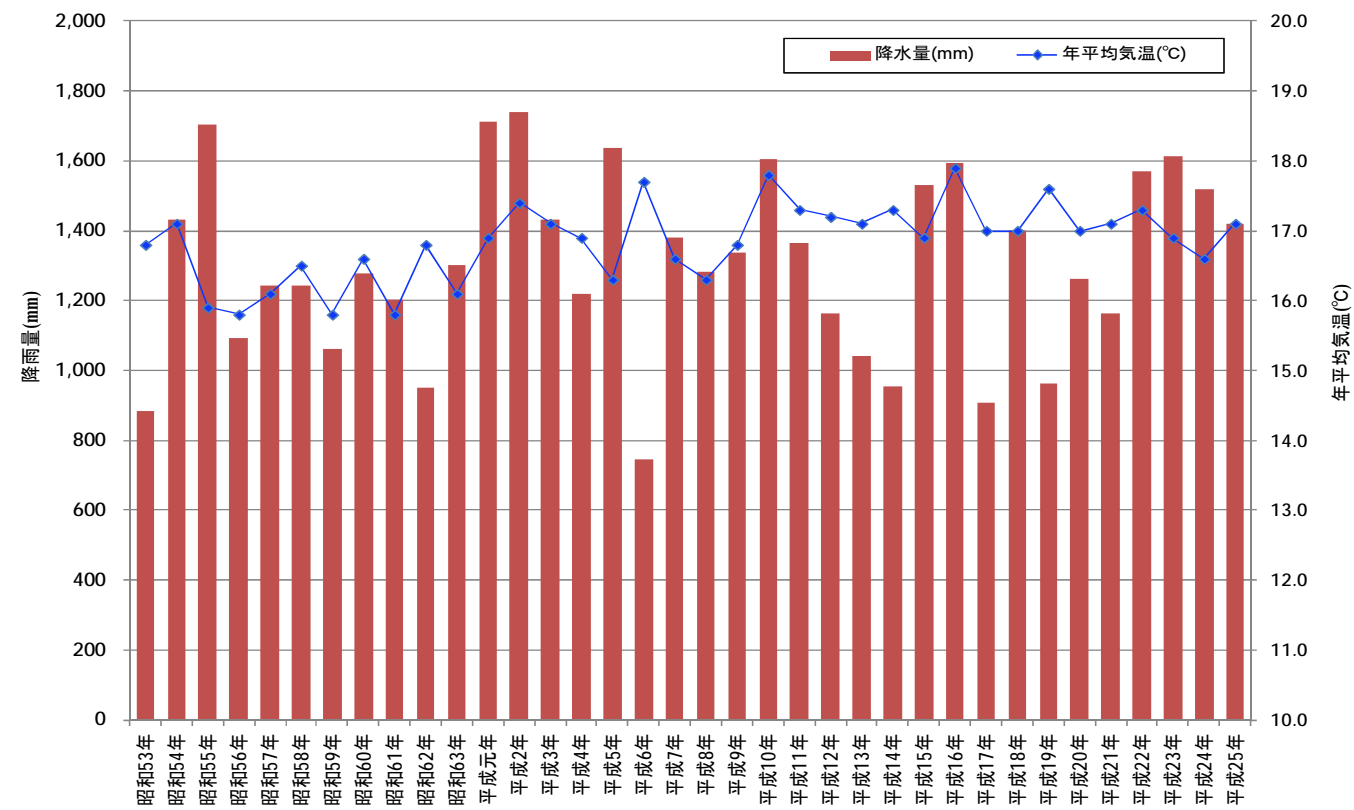


図 1.13 大阪管区気象台の年降水量と年平均気温 (昭和53年～平成25年)

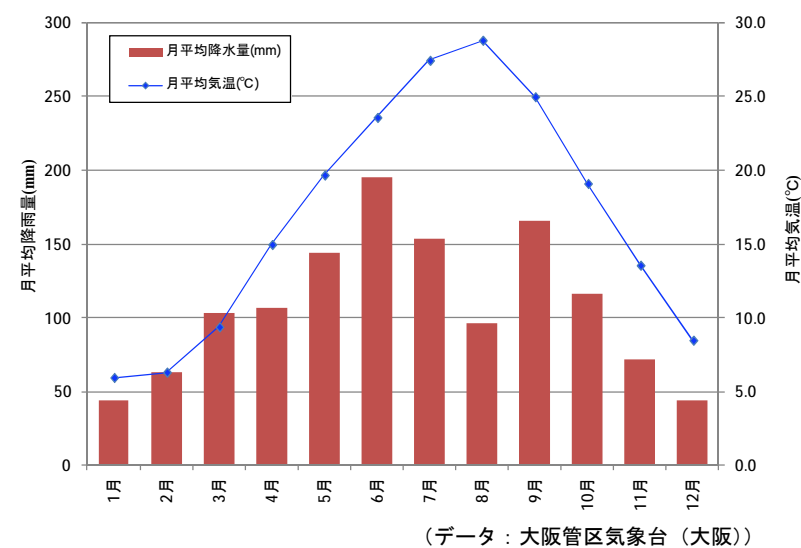


図-1.14 大阪管区気象台の月平均降水量と月平均気温 (昭和53年～平成25年)

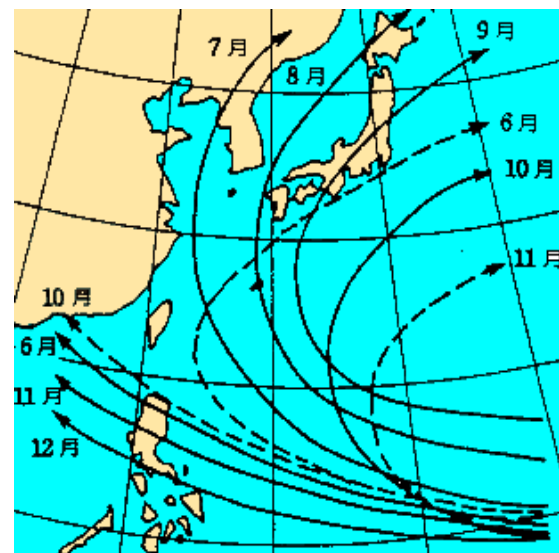


図-1.15 台風の月別の主な経路

3) 自然環境

神崎川下流ブロック周辺（主に、大阪市西淀川区）においては、都市化が進んでおり、動植物の生息域は限定されています。神崎川河口部に位置する矢倉海岸^{やぐらかいがみ}においては貴重種¹⁾が確認されており、数少ない、豊かな動植物の生息場所となっています。



図 1.16 矢倉緑地（神崎川上流を望む）

¹⁾ 貴重種：固有性、希少性、立地依存性、脆弱性や学術上の重要性などからみて貴重と考えられる生物種

① 植物

現存植生図では、一般住宅地と工場地帯からなり、「矢倉緑地」や「大野せせらぎの里」などの大規模公園整備や、「大野川緑陰道路」により、植生が見られますが、貴重な植生はほとんど見られません。

平成25年度の「大阪湾生き物一斉調査」による矢倉海岸の調査では、51科139種が確認され、ハマボウ（大阪府レッドリスト²⁾：絶滅³⁾）、ハマボウフウ、モモ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類⁴⁾）など、貴重種が確認されています。

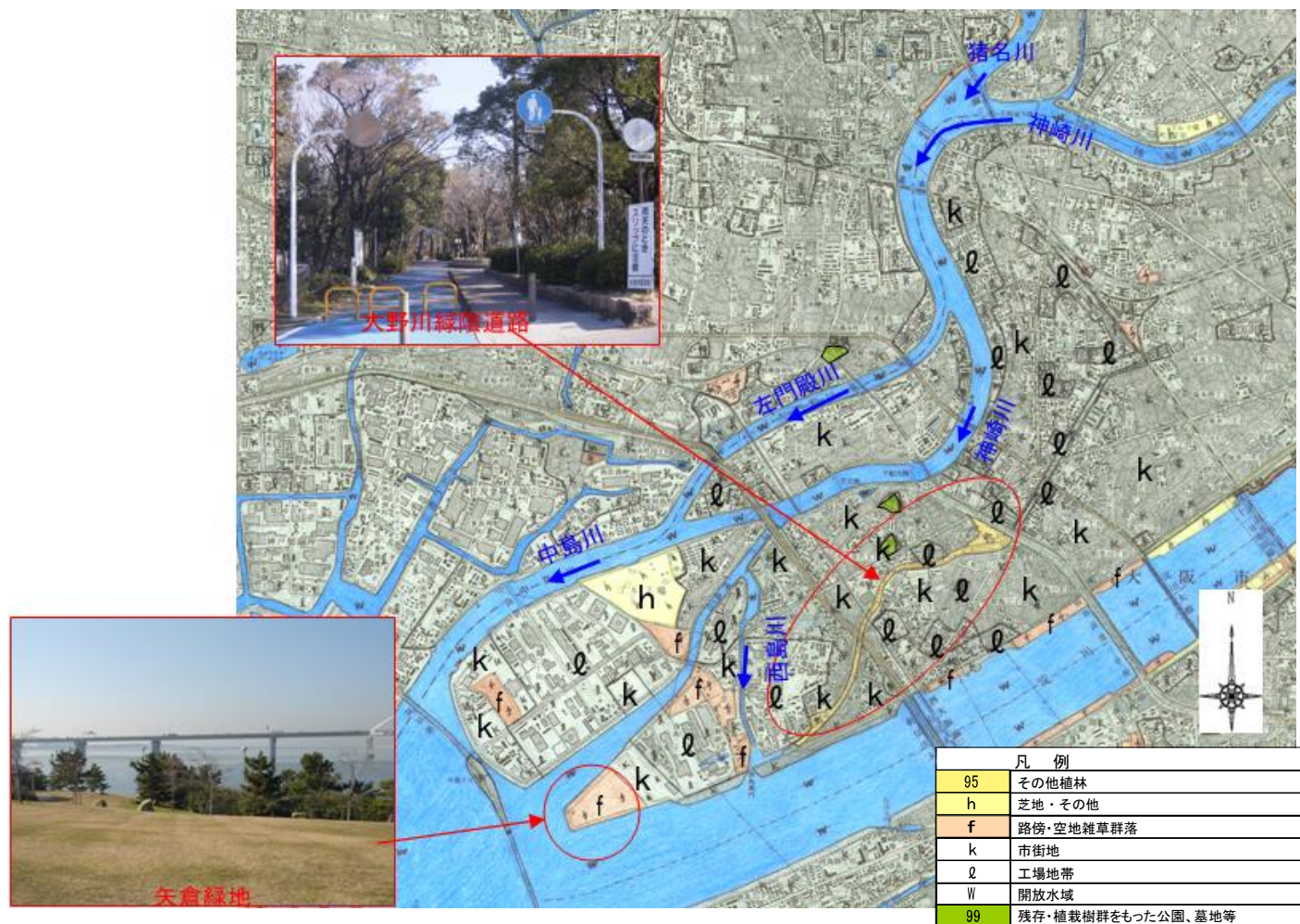


図 1.17 現存植生図

出典：第6回・第7回自然環境保全基礎調査 植生調査 近畿ブロック
2次メッシュ：大阪西北部（2001年度調査）
（一部修正・加筆）

表 1.2-(1) 植物確認リスト

科名	種名	学名	河川名	神崎川 (矢倉海岸)	大阪府RL 2014	環境省 第四次RL
			資料名 調査年度	大阪湾 生き物一斉調査 平成25年度		
アオイ科	ハマボウ	<i>Hibiscus hamabo</i>		○	絶滅	
アオギリ科	アオギリ	<i>Firmiana simplex</i>		○		
アカザ科	ホコガタアカザ	<i>Atriplex hastata</i>		○		
アカネ科	オオフタバムグラ	<i>Diodia teres</i>		○		
	ヘクソカズラ	<i>Paederia scandens</i>		○		
	ヤエムグラ	<i>Galium spurium var.echinopermon</i>		○		
アカバナ科	コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata</i>		○		
	メマツヨイグサ	<i>Oenothera biennis</i>		○		
	セイヨウカラシナ	<i>Brassica juncea</i>		○		
	ナズナ	<i>Capsella bursapastoris var.triangularis</i>		○		
	ハマダイコン	<i>Raphanus sativus var.raphanistroides</i>		○		
	マメゲンバイナズナ	<i>Lepidium virginicum</i>		○		
	ミチタネツケバナ	<i>Cardamine hirsuta</i>		○		
アヤマ科	フリージア	<i>Freesia refracta (Jacq) Ecklon ex Klatt</i>		○		
イグサ科	クサイ	<i>Juncus tenuis</i>		○		
	スズメノヤリ	<i>Luzula capitata</i>		○		
イネ科	イヌムギ	<i>Bromus catharticus</i>		○		
	オオスズメノカタビラ	<i>Poa trivialis</i>		○		
	カモシグサ	<i>Agropyron tsukushiense var.transiens</i>		○		
	カラスムギ	<i>Avena fatua</i>		○		
	シナダレスズメガヤ	<i>Eragrostis curvula</i>		○		
	ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>		○		
	スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i>		○		
	チガヤ	<i>Imperata cylindrica var.koenigii</i>		○		
	ハマニンニク	<i>Elymus mollis</i>		○		
	ヒメコバンソウ	<i>Briza minor</i>		○		
	メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>		○		
	ヤマアワ	<i>Calamagrostis epigeios</i>		○		
	ヨシ	<i>Phragmites australis</i>		○		
ウリ科	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>		○		
ウルシ科	ヌルデ	<i>Rhus javanica var.chinensis</i>		○		
オオバコ科	ツボミオオバコ	<i>Plantago virginica L.</i>		○		
	ヘラオオバコ	<i>Plantago lanceolata</i>		○		
オシダ科	ヤブソテツ	<i>Cyrtomium fortunei</i>		○		
オミナエシ科	ノヂシヤ	<i>Valerianella locusta</i>		○		
カタバミ科	アカカタバミ	<i>Oxalis corniculata frubrifolia</i>		○		
	オッタチカタバミ	<i>Oxalis stricta</i>		○		
	カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>		○		
カヤツリグサ科	アオスゲ	<i>Carex leucochlora</i>		○		
	コウボウムギ	<i>Carex kobomugi</i>		○	絶滅危惧Ⅱ類	
	シオクグ	<i>Carex scabrifolia</i>		○	準絶滅危惧	
	ハマスゲ	<i>Cyperus rotundus</i>		○		
	ヒトモトススキ	<i>Cladium chinense</i>		○	絶滅危惧Ⅱ類	
キキョウ科	キキョウソウ	<i>Specularia perfoliata</i>		○		
キク科	アレチノギク	<i>Conyza bonariensis</i>		○		
	オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i>		○		
	オオジシバリ	<i>Ixeris japonica (Burm.f) Nakai</i>		○		
	オニタビラコ	<i>Youngia japonica</i>		○		
	オニノゲシ	<i>Sonchus asper</i>		○		
	カワラヨモギ	<i>Artemisia capillaris</i>		○		
	カンサイタンポポ	<i>Taraxacum japonicum</i>		○		
	コセンダングサ	<i>Bidens pilosa</i>		○		
	セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>		○		
	セイタカハハコグサ	<i>Gnaphalium luteoalbum</i>		○		
	セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>		○		
	チチコグサ	<i>Gnaphalium japonicum</i>		○		
	チチコグサモドキ	<i>Gnaphalium pensylvanicum</i>		○		
	ツワブキ	<i>Farfugium japonicum</i>		○		
	トキンソウ	<i>Centipeda minima</i>		○		
	ニガナ	<i>Ixeris dentata</i>		○		
	ノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i>		○		
	ノボロギク	<i>Senecio vulgaris</i>		○		
	フタクサ	<i>Ambrosia artemisiifolia var.elatior</i>		○		
	マルバトゲシヤ	<i>Lactuca scariola f.integrifolia</i>		○		
	メリケントキンソウ	<i>Soliva sessilis</i>		○		
キョウチクトウ科	キョウチクトウ	<i>Nerium indicum</i>		○		
キンポウゲ科	センニンソウ	<i>Clematis temiflora</i>		○		
	タガラシ	<i>Ranunculus sceleratus</i>		○		
	トゲミノキツネノボタン	<i>Ranunculus muricatus</i>		○		
	ヒメウズ	<i>Aquilegia adoxoides</i>		○		
	ボタンツル	<i>Clematis apiifolia</i>		○		

²⁾ 大阪府レッドリスト：大阪における保護上重要な野生生物のデータリスト
³⁾ 絶滅：大阪府内ではすでに絶滅したと考えられる種
⁴⁾ 絶滅危惧Ⅰ類：大阪府内において絶滅の危機に瀕している種

表 1.2-(2) 植物確認リスト

科名	種名	学名	河川名	神崎川 (矢倉海岸)	大阪府RL 2014	環境省 第四次RL	
			資料名	大阪湾 生き物一斉調査			
			調査年度	平成25年度			
クスノキ科	クスノキ	<i>Cinnamomum camphora</i>		○			
クマツヅラ科	シチヘンゲ	<i>Lantana camara L. var. aculeata (L.) Moldenke</i>		○			
	ハマゴウ	<i>Vitex rotundifolia</i>		○			
グミ科	アキグミ	<i>Elaeagnus umbellata</i>		○			
	ナワシログミ	<i>Elaeagnus pungens</i>		○			
クルミ科	オニグルミ	<i>Juglans ailanthifolia</i>		○			
クワ科	カナムグラ	<i>Humulus japonicus</i>		○			
	ヤマグラ	<i>Morus australis Poir.</i>		○			
ケシ科	ナガミヒナゲシ	<i>Papaver dubium</i>		○			
ゴマノハグサ科	オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i>		○			
	タチイヌノフグリ	<i>Veronica arvensis</i>		○			
	ビロードモウズイカ	<i>Verbascum thapsus</i>		○			
	フラサハソウ	<i>Veronica hederifolia</i>		○			
	マツバウンラン	<i>Linaria canadensis</i>		○			
サボテン科	ウチワサボテン	<i>Opuntia ficus-indica (L.) Mill.</i>		○			
シソ科	ヒメオドリコソウ	<i>Lamium purpureum</i>		○			
	ホトケノザ	<i>Lamium amplexicaule</i>		○			
セリ科	オヤブジラミ	<i>Torilis scabra</i>		○			
	ハマウド	<i>Angelica japonica</i>		○			
	ハマボウフウ	<i>Glehnia littoralis</i>		○	絶滅危惧 I 類		
センダン科	センダン	<i>Melia azedarach</i>		○			
タデ科	アレチギンギシ	<i>Rumex conglomeratus</i>		○			
	イタドリ	<i>Reynoutria japonica</i>		○			
	ギンギシ	<i>Rumex japonicus</i>		○			
	ママコノシリヌグイ	<i>Persicaria seticosa</i>		○			
ツユクサ科	ツユクサ	<i>Commelina communis</i>		○			
トウダイグサ科	アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i>		○			
トクサ科	トクサ	<i>Equisetum hyemale</i>		○			
トベラ科	トベラ	<i>Pittosporum tobira</i>		○			
ナス科	クコ	<i>Lycium chinense</i>		○			
ナデシコ科	ウシオハナツメクサ	<i>Spargularia bocconii</i>		○			
	オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>		○			
	ツメクサ	<i>Sagina japonica</i>		○			
	ノミツヅリ	<i>Arenaria serpyllifolia</i>		○			
ニガキ科	シンジュ	<i>Ailanthus altissima</i>		○			
ニレ科	アキノレ	<i>Ulmus parvifolia</i>		○			
ハマミズナ科	ツルナ	<i>Tetragonia tetragonoides</i>		○			
バラ科	オオシマザクラ	<i>Prunus lannesiana var. speciosa</i>		○			
	シャリソノ	<i>Rhaphiolepis umbellata</i>		○			
	ソメイヨシノ	<i>Prunus x yedoensis</i>		○			
	ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i>		○			
	ハマナス	<i>Rosa rugosa</i>		○			
	ピラカンサ	-		○			
	モモ	<i>Prunus persica</i>		○	絶滅危惧 I 類		
	ヒガンバナ科	ハマオモト	<i>Crinum asiaticum var. japonicum</i>		○		
ヒユ科	イノコヅチ	<i>Achyranthes bidentata Blume var. japonica Miq.</i>		○			
ヒルガオ科	ハマヒルガオ	<i>Calystegia soldanella</i>		○			
	ヒルガオ	<i>Calystegia japonica</i>		○			
フウロソウ科	アメリカフウロ	<i>Geranium carolinianum</i>		○			
ブナ科	ウバメガシ	<i>Quercus phillyraeoides</i>		○			
マメ科	アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i>		○			
	ウマゴヤシ	<i>Medicago polymorpha</i>		○			
	カスマグサ	<i>Vicia tetrasperma</i>		○			
	カラスノエンドウ	<i>Vicia sativa subsp. Nigra</i>		○			
	ゲンゲ	<i>Astragalus sinicus</i>		○			
	コメツブウマゴヤシ	<i>Medicago lupulina</i>		○			
	コメツブツメクサ	<i>Trifolium dubium</i>		○			
	シロツメクサ	<i>Trifolium repens</i>		○			
	スズメノエンドウ	<i>Vicia hirsuta</i>		○			
	ネコハギ	<i>Lespedeza pilosa</i>		○			
	ハマエンドウ	<i>Lathyrus japonicus</i>		○	準絶滅危惧		
	ハリエンジュ	<i>Robinia pseudoacacia L.</i>		○			
	メドハギ	<i>Lespedeza cuneata</i>		○			
	ムラサキ科	キュウリグサ	<i>Trigonotis peduncularis</i>		○		
		ハナイバナ	<i>Bothriospermum tenellum</i>		○		
	モクセイ科	トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>		○		
ヤマノイモ科	ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>		○			
リンドウ科	ハナハマセンブリ	<i>Centaurium pulchellum</i>		○			
			科名	51			
			種名	139			

大阪湾生き物一斉調査」データはホームページによる

*大阪府 RL:「大阪府レッドリスト 2014」、環境省第四次 RL:「環境省レッドリスト」H24.8、H25.2 公表

② 魚類

神崎川河口～猪名川合流点までの区間は汽水域であり、平成 4 年、9 年の調査で、「ボラ」と「スズキ」が確認されています。なお、猪名川合流点より上流区間の神崎川等では、既往調査により、「アユ」が確認されています。

平成 25 年度の「大阪湾生き物一斉調査」による矢倉海岸の調査では、9 科 14 種が確認され、二ホンウナギ（環境省レッドリスト⁵⁾:絶滅危惧 I B 類⁶⁾）が確認されています。



ボラ

大阪市ホームページ「大阪市内の川にすむ魚」



スズキ

大阪府ホームページ「おおさかの“おさかな”」

表 1.3-(1) 魚類確認リスト

目名	科名	種名	学名	河川名	神崎川 河口～猪名川合流点	重要種		
				資料番号	一級河川茨木川外多自然型護岸検討委託報告書 平成5年3月 大阪府	一級河川神崎川外多自然型護岸検討委託報告書 平成10年3月 大阪府西大阪治水事務所	大阪府RL	環境省第四次RL
				調査年度	H4	H9		
ボラ	ボラ	ボラ	<i>Mugil cephalus cephalus</i>		○	○		
スズキ	スズキ	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>			○		
資料別出現種数				目数	1	2		
				科数	1	2		
				種類数	1	2		
河川別出現種数				目数		2		
				科数		2		
				種類数		2		

*大阪府 RL:「大阪府レッドリスト 2014」、環境省第四次 RL:「環境省レッドリスト」H24.8、H25.2 公表

調査箇所における観測個体数

	出来島 大橋	国道 43 号線下	千船 大橋	猪名川 合流点
種名	H9	H4	H9	H9
ボラ	1 個体	1 個体	1 個体	1 個体
スズキ				1 個体

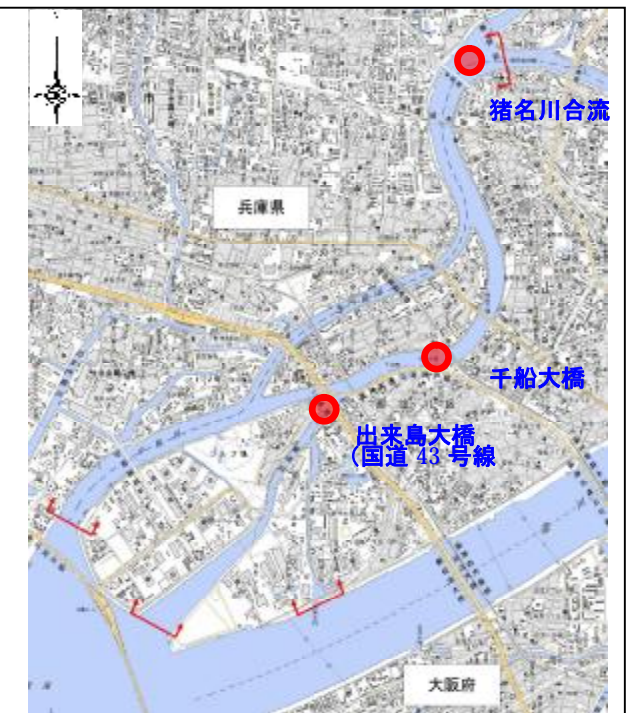


図 1.18 調査箇所位置図（魚類）

⁵⁾ 環境省レッドリスト:日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリストである。

⁶⁾ 絶滅危惧 I B 類: I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いものである。

表 1.3-(2) 魚類確認リスト

分類				河川名	神崎川 (矢倉海岸)	大阪府RL 2014	環境省 第四次RL	
目名	科名	種名	学名	資料名	大阪湾 生き物一斉調査 調査年度 平成25年度			
ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	Anguilla japonica		○	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠB類	
エイ目	アカエイ科	アカエイ	Dasyatis akajei		○			
スズキ目	イソギンボ科	イダテンギンボ	Omobranchus punctatus		○			
		トサカギンボ	Omobranchus fasciolatoceps		○			
	スズキ科	スズキ	Lateolabrax japonicus		○			
	タイ科	キチヌ	Acanthopagrus latus		○			
	ネズツボ科	ネズミゴチ	Repomucenus curvicornis		○			
	ハゼ科	アベハゼ	Mugilogobius abei		○			
		ウロハゼ	Glossogobius olivaceus		○			
		チチブ	Tridentiger obscurus		○			
		ドロメ	Chaenogobius gulosus		○			
		マハゼ	Acanthogobius flavimanus		○			
ボラ科	ボラ	Mugil cephalus cephalus		○				
ヨウジウオ目	ヨウジウオ科	ヨウジウオ	Syngnathus schlegeli		○			
出現種数				目名	4			
				科名	9			
				種名	14			

「大阪湾生き物一斉調査」データはホームページによる

*大阪府 RL：「大阪府レッドリスト2014」、環境省第四次 RL：「環境省レッドリスト」H24.8、H25.2 公表

③ 底生生物

平成4年、9年度の調査によれば、カワヒバリガイ、モクスガニ、テナガエビが確認される他、フジツボ科の一種、イガイ科の一種、ゴカイ科の一種、ミミズ類が確認されています。

表 1.4-(1) 底生生物確認リスト

分類				河川名	神崎川 河口 ~ 猪名川合流点			重要種	
目名	科名	種名	学名	資料番号	一級河川茨木川外 多自然型護岸検討 委託報告書平成 5年3月 大阪府	一級河川神崎川外 多自然型護岸検討 委託報告書平成 10年3月 大阪 府西大阪治水事務 所	西淀自然文化 協会調査	大阪府 RL	環境省 第四次RL
				調査年度	H4	H9	H20		
イガイ	イガイ科	カワヒバリガイ	Limnoperna fortunei			○			
		イガイ科の一種	Mytilidae gen. sp.			○			
		ヒバリガイ亜科の一種	Mdiolinae gen. sp.		○				
マルスタレガイ	マルスタレガイ科	ウネナシトマヤガイ	Trapezium liratum				○		準絶滅危惧
		ヤマトシジミ	Corbicula japonica				○		絶滅危惧Ⅱ類
オキナエビ	アマオブネガイ科	イシマキガイ	Clithon retropictus				○		
サシバゴカイ	ゴカイ科	ゴカイ科の一種	Nereididae gen. sp.		○	○			
		(ミミズ類)	Oligochaeta		○	○			
フジツボ	フジツボ科	フジツボ科の一種	Balanidae gen. sp.			○			
エビ	テナガエビ科	テナガエビ	Macrobrachium nipponense		○	○			
		イワカニ	Eriocher japonicus			○			
カニ	スナガニ	ハクセンシオマネキ	Fiddler crab				○		絶滅危惧Ⅱ類
資料別出現種数				目数	4	5	3		
				科数	4	6	4		
				種類数	4	7	4		
河川別出現種数				目数	8				
				科数	10				
				種類数	12				

「西淀自然文化協会」データは西淀自然文化協会提供資料による

*大阪府 RL：「大阪府レッドリスト2014」、環境省第四次 RL：「環境省レッドリスト」H24.8、H25.2 公表

平成25年度の「大阪湾生き物一斉調査」による矢倉海岸の調査では、19科30種が確認され、平成20年に確認されたハクセンシオマネキ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類⁷⁾）、ウネナシトマヤガイ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧⁸⁾）、ヤマトシジミ（環境省レッドリスト：準絶滅危惧）の他、オオサカドロソコエビ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類）が確認されています。

表 1.4-(2) 底生生物確認リスト

分類				河川名	神崎川 (矢倉海岸)	大阪府RL 2014	環境省 第四次RL	
目名	科名	種名	学名	資料名	大阪湾 生き物一斉 調査 調査年度 平成25年度			
アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	イシマキガイ	Clithon retropicta		○			
蟹目	カワザンショウガイ科	カワザンショウガイ	Assiminea japonica		○			
		タマキビ科	Littoraria articulata		○			
イガイ目	イガイ科	コウロエンカワヒバリガイ	Xenostrobus securis		○			
		ホトギスガイ	Musculista senhousia		○			
カキ目	イタボガキ科	マガキ	Crassostrea gigas		○			
マルスタレガイ目	カワホトギス科	イガイダマシ	Mytilopsis sallei		○			
		シジミ科	ヤマトシジミ	Corbicula japonica		○		準絶滅危惧
		フナガタガイ科	ウネナシトマヤガイ	Trapezium liratum		○		準絶滅危惧
ケヤリムシ目	カンザシゴカイ科	カニヤドリカンザシゴカイ	Ficopomatus enigmaticus		○			
サシバゴカイ目	ゴカイ科	アシナゴカイ	Neanthes succinea		○			
		オイワケゴカイ	Lycastopsis augeneri		○			
ヨコエビ目	ハマトビムシ科	ヒメハマトビムシ	Platorchestia platensis		○			
		メリタヨコエビ科	シミズメリタヨコエビ	Melita shimizui		○		
			ヒゲツノメリタヨコエビ	Melita setiflagella		○		
端脚目	ユンボソコエビ科	オオサカドロソコエビ	Grandidierella osakaensis		○		絶滅危惧Ⅰ類	
	ユンボヨコエビ科	ニホンドロソコエビ	Grandidierella japonica		○			
フジツボ目	フジツボ科	アメリカフジツボ	Balanus eburneus		○			
		シロスジフジツボ	Balanus albicostatus		○			
		タテジマフジツボ	Balanus amphitrite		○			
		ドロフジツボ	Balanus kondakovi		○			
		ヨーロッパフジツボ	Balanus improvisus		○			
						○		
エビ目	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ	Pagurus dubius		○			
		スナガニ科	ハクセンシオマネキ	Uca lactea		○		絶滅危惧Ⅱ類
	ベンケイガニ科	カクベンケイガニ	Parasesarma pictum		○			
		クロベンケイガニ	Chiromantes dehaani		○			
	モクスガニ科	イソガニ	Hemigrapsus sanguineus		○			
		ケフサイソガニ	Hemigrapsus penicillatus		○			
		タカノケフサイソガニ	Hemigrapsus takanoi		○			
		モクスガニ	Eriocher japonicus		○			
出現種数				目名	11			
				科名	19			
				種名	30			

「大阪湾生き物一斉調査」データはホームページによる

*大阪府 RL：「大阪府レッドリスト2014」、環境省第四次 RL：「環境省レッドリスト」H24.8、H25.2 公表

⁷⁾ 絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種である。

⁸⁾ 準絶滅危惧種：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種である。

④ 哺乳類、両生類、は虫類

動植物調査は神崎川において平成4年、9年度に実施していますが、神崎川河口～猪名川合流点までの区間については哺乳類、両生類・爬虫類等の項目は調査対象外でした。

平成16～20年の「西淀自然文化協会」による矢倉海岸の調査では、哺乳類ではアブラコウモリ、爬虫類ではアオダイショウ、カナヘビ、トカゲなどの5種が確認されています。平成25年度の「大阪湾生き物一斉調査」による矢倉海岸の調査では、ニホンカナヘビ、ニホントカゲ、ミシシippアカミミカメなど3種が確認されています。

表 1.5 哺乳類、両生類、は虫類確認リスト

分類				河川名	神崎川 (矢倉海岸)	大阪府RL 2014	環境省 第四次RL
目名	科名	種名	学名	資料名	調査年度		
有鱗目	カナヘビ科	ニホンカナヘビ	Takydromus tachydromoides	大阪湾生き物一斉調査	平成25年度	○	
	トカゲ科	ニホントカゲ	Plestiodon japonicus			○	
カメ目	ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ	Trachemys scripta elegans			○	
出現種数				目名	2		
				科名	3		
				種名	3		

「大阪湾生き物一斉調査」データはホームページによる

*大阪府 RL：「大阪府レッドリスト 2014」、環境省第四次 RL：「環境省レッドリスト」H24.8、H25.2 公表

⑤ 鳥類

平成13年度の調査では、コアシサシ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類⁹⁾、環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ種）やカワウ、アオサギ、マガモ、ムクドリが確認されています。

平成18年の『日本野鳥の会』による矢倉海岸の調査では、コアシサシの他、ソリハシシギ、キョウジョシギ、シロチドリ、メダイチドリ、ダイセン（ともに大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）などが確認されています。

平成25年度の「大阪湾生き物一斉調査」による矢倉海岸の調査では、22科37種が確認され、貴重種であるコアシサシ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅰ類）、ソリハシシギ（大阪府レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）が確認されています。

表 1.6-(1) 鳥類確認リスト

目名	科名	種名	学名	資料番号	神崎川 河口～猪名川合流点		重要種	
					調査年度	H13	H18-H19	大阪府RL
カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ	Podiceps cristatus					
		ハシロカイツブリ	Podiceps nigricollis					
ペリカン	ウ	カク	Phalacrocorax carbo		○			
カ	カ	ミサゴ	Pandion haliaeetus					準絶滅危惧
		トビ	Milvus migrans					
		オオカ	Accipiter gentilis					準絶滅危惧
		ハヤブサ	Falco peregrinus Tunstall					絶滅危惧Ⅱ類
ミスズドリ	ミスズドリ	ハシホノミスズドリ	Puffinus tenuirostris					
コウノトリ	サギ	ササゴイ	Butorides striatus					
		クイナ	Egretta alba					
		コサギ	Egretta garzetta					
		カラシサギ	Egretta eulophotes					準絶滅危惧
		アオサギ	Ardea cinerea		○			
カモ	カモ	マガモ	Anas platyrhynchos		○			
		カルガモ	Anas poecilorhyncha		○			
		コガモ	Anas crecca					
		オカヨシガモ	Anas strepera					
		ヒドリガモ	Anas penelope					
		オナガガモ	Anas acuta					
		キンノシロ	Aythya ferina					
		キンノシロ	Aythya fuligula					
		スズガモ	Aythya marila					
		オオノカモ	Common goldeneye					
		クミドリ	Mergus serrator					
チドリ	シギ	イソシギ	Actitis hypoleucos					準絶滅危惧
		ソリハシシギ	Xenus cinereus					絶滅危惧Ⅱ類
		フェウシヤシギ	Numenius phaeopus					準絶滅危惧
		キョウジョシギ	Arenaria interpres					絶滅危惧Ⅱ類
		トウネン	Calidris ruficollis					準絶滅危惧
		アオアシシギ	Tringa nebularia					準絶滅危惧
		キアシシギ	Heteroscelus brevipes					準絶滅危惧
		ハマシギ	Calidris alpina					
		サハラシギ	Calidris ferruginea					準絶滅危惧
チドリ	チドリ	コチドリ	Charadrius dubius Scopoli					準絶滅危惧
		シロチドリ	Charadrius alexandrinus Linnaeus					絶滅危惧Ⅱ類
		メダイチドリ	Charadrius mongolus Pallas					絶滅危惧Ⅱ類
		クイナ	Pluvialis squatarola					絶滅危惧Ⅱ類
カモ	カモ	ユリカモ	Larus ridibundus					
		アオアシ	Sterna albifrons Pallas		○			絶滅危惧Ⅰ類
		セウカモ	Larus argentatus					絶滅危惧Ⅱ類
		カモ	Larus canus					
		クミドリ	Larus crassirostris					
ハト	ハト	キジハト	Streptopelia orientalis					
スズメ	スズメ	スズメ	Hirundo rustica					
セキレイ	セキレイ	ハクセキレイ	Mtacilla alba					
		クセキレイ	Anthus spinoletta					
		セウセキレイ	Mtacilla grandis		○			
		ヒバリ	Alauda arvensis					準絶滅危惧
ヒヨドリ	ヒヨドリ	ヒヨドリ	Hypsipetes amurotis					
モズ	モズ	モズ	Lanius bucephalus					
ヒバリ	ヒバリ	ヒバリ	Ficedula narcissina					
ツグミ	ツグミ	ノコマ	Eriothacus calliope					
		シヨビ	Phoenicurus aureus					
		ノビ	Saxicola torquata					
		イソヒヨドリ	Mnticola solitarius					
		ノビ	Tarsiger cyanurus					
		シロハラ	Turdus pallidus					
		ツグミ	Turdus naumanni					
クグイ	クグイ	クグイ	Cettia diphone					
		センカクイ	Phylloscopus coronatus					準絶滅危惧
		セウ	Cisticola juncidis					準絶滅危惧
		オオヨシキリ	Acrocephalus arundinaceus					準絶滅危惧
シヨウカラ	シヨウカラ	シヨウカラ	Parus major					
シロ	シロ	シロ	Zosterops japonicus					
オシロ	オシロ	オシロ	Emberiza cioides					
		アオシ	Emberiza spodocephala					
アトリ	アトリ	アトリ	Carduelis sinica					
ハチドリ	ハチドリ	ハチドリ	Passer montanus					
ムクドリ	ムクドリ	ムクドリ	Sturnus cineraceus		○			
カラス	カラス	ハシホノカラス	Corvus corone					
		ハシホノカラス	Corvus macrorhynchos					
資料別出現種数				目数	5	9		
				科数	6	26		
				種類数	7	71		
河川別出現種数				目数	9			
				科数	26			
				種類数	71			

*大阪府 RL：「大阪府レッドリスト 2014」、環境省第四次 RL：「環境省レッドリスト」H24.8、H25.2 公表

⁹⁾ 絶滅危惧Ⅰ類：大阪府内びおいて絶滅の危険の危機に瀕している種。

表 1.6-(2) 鳥類確認リスト

目名	科名	種名	学名	河川名	神崎川 (矢倉海岸)	大阪府RL 2014	環境省 第四次RL
				資料名	大阪湾 生き物一斉調査		
				調査年度	平成25年度		
カモ目	カモ科	カルガモ	Anas poecilorhyncha		○		
		キンクロハジロ	Aythya fuligula		○		
		スズガモ	Aythya marila		○		
		ヒドリガモ	Anas penelope		○		
コウノトリ目	サギ科	ホシハジロ	Aythya ferina		○		
		アオサギ	Ardea cinerea		○		
		コサギ	Egretta garzetta		○		
		ダイサギ	Egretta alba		○		
スズメ目	アトリ科	カワラヒワ	Carduelis sinica		○		
	ウグイス科	ウグイス	Cettia diphone		○		
		セッカ	Cisticola juncidis		○	準絶滅危惧	
	カラス科	ハシブトガラス	Corvus macrorhynchos		○		
		ハシボソガラス	Corvus corone		○		
	シジュウカラ科	シジュウカラ	Parus major		○		
	セキレイ科	セグロセキレイ	Motacilla grandis		○		
		ハクセキレイ	Motacilla alba		○		
	ツグミ科	シロハラ	Turdus pallidus		○		
		ツグミ	Turdus naumanni		○		
	ツバメ科	ツバメ	Hirundo rustica		○		
	ハタオリドリ科	スズメ	Passer montanus		○		
	ヒタキ科	オオルリ	Cyanoptila cyanomelana		○		
		キビタキ	Ficedula narcissina		○		
	ヒバリ科	ヒバリ	Alauda arvensis		○	準絶滅危惧	
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	Hypsipetes amaurotis		○		
		アオジ	Emberiza spodocephala		○		
	ムクドリ科	ムクドリ	Sturnus cineraceus		○		
	メジロ科	メジロ	Zosterops japonicus		○		
	タカ目	タカ科	トビ	Milvus migrans		○	
ミサゴ			Pandion haliaetus		○	準絶滅危惧	
チドリ目	カモメ科	コアジサシ	Sterna albifrons		○	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類
		キアシシギ	Heteroscelus brevipes		○	準絶滅危惧	
	シギ科	ソリハシシギ	Xenus cinereus		○	絶滅危惧Ⅱ類	
		チュウシヤクシギ	Numenius phaeopus		○	準絶滅危惧	
チドリ科	コチドリ	Charadrius dubius		○	準絶滅危惧		
ハト目	ハト科	キジバト	Streptopelia orientalis		○		
ペリカン目	ウ科	ドバト	Columba livia var.domesticus		○		
		カワウ	Phalacrocorax carbo		○		
出現種数				目名	7		
				科名	22		
				種名	37		

「大阪湾生き物一斉調査」データはホームページによる

*大阪府 RL：「大阪府レッドリスト 2014」、環境省第四次 RL：「環境省レッドリスト」H24.8、H25.2 公表

⑥ 昆虫

神崎川における動植物調査（平成4年度、9年度）においては神崎川河口～猪名川合流点までの区間は昆虫の調査対象外でした。

環境省自然環境保全基礎調査（第3回（昭和59年度）及び第4回（平成元～3年度）動植物分布調査結果による環境省自然多様性生物センター情報公開の「地域の自然を調べる」（西淀川区域）によると、表 1.7-(1)の昆虫が確認されています。

平成25年度の「大阪湾生き物一斉調査」による矢倉海岸の調査では、表 1.7-(2)のとおり22科41種が確認されています。

表 1.7-(1) 昆虫確認リスト

目名	科名	和名	学名	大阪府RL	環境省 第四次RL
トンボ目	トンボ科	シオカラトンボ	Orthetrum albistylum speciosum		
チョウ目	ウラギンシジミチョウ科	ウラギンシジミ	Curetis acuta paracuta		
		シロチョウ科	キチョウ	Eurema hecabe hecabe	
	セセリチョウ科	モンシロチョウ	Pieris(Artogeia) rapae crucivora		
		イチモンジセセリ	Parnara guttata		
		チャバネセセリ	Pelopidas mathias oberthueri		
	タテハチョウ科	アカタテハ	Vanessa indica		
キタテハ		Polygonia c-aureum c-aureum			
出現種数				2目6科8種	

データ：第3回環境省自然環境保全基礎調査(S59)、第4回環境省自然環境保全基礎調査(H1~3)動植物調査結果

*大阪府 RL：「大阪府レッドリスト 2014」、環境省第四次 RL：「環境省レッドリスト」H24.8、H25.2 公表

表 1.7-(2) 昆虫確認リスト

目名	科名	種名	学名	河川名	神崎川 (矢倉海岸)	大阪府RL 2014	環境省 第四次RL	
				資料名	大阪湾 生き物一斉調査			
				調査年度	平成25年度			
カマキリ目(蠍目)	カマキリ科	チョウセンカマキリ	Tenodera angustipennis		○			
		ハラビロカマキリ	Hierodula patellifera		○			
カメシ目(半翅目)	アブラムシ科	イバラヒゲナガアブラムシ	Sitobion ibarae		○			
		ギシギシアブラムシ	Aphis rumicis		○			
		セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ	Uroleucon nigrotuberculatum		○			
		ソラマメヒゲナガアブラムシ	Megoura crassicauda		○			
		マメクローアブラムシ	Aphis fabae fabae		○			
		モモコフアブラムシ	Hyalopterus pruni		○			
		ヨモギハアブラムシ	Aphis kurosawai		○			
		ワタアブラムシ	Aphis gossypii		○			
		カタカイガラムシ科	ツノロウムシ	Ceroplastes ceriferus		○		
		マルカメムシ科	マルカメムシ	Megacopta punctatissima		○		
コウチュウ目(鞘翅目)	コガネムシ科	アオハナムグリ	Cetonia roelofsi roelofsi		○			
		コアオハナムグリ	Gametis jucunda		○			
		セマダラコガネ	Blitopertha orientalis		○			
	テントウムシ科	ナナホシテントウ	Coccinella septempunctata		○			
		ナミテントウ	Harmonia axyridis		○			
		ヒメカメノテントウ	Propylea japonica		○			
	ハムシ科	トホシクビボソハムシ	Lema decempunctata		○			
		ヨモギハムシ	Chrysolina aurichalcea		○			
		ゴキブリ目(網翅目)	チャバネゴキブリ科	チャバネゴキブリ	Blattella germanica		○	
		チョウ目(鱗翅目)	アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	Graphium sarpedon nipponum		○	
ナミアゲハ	Papilio xuthus				○			
シジミチョウ科	ツバメシジミ		Everes argiades hellotia		○			
	ヤマトシジミ本土亜種		Pseudozizeeria maha argia		○			
ジャクガ科	ウメエダジャク		Cystidia couaggaria		○			
	シロフユエダジャク		Agriopsis dira		○			
シロチョウ科	キチョウ		Eurema hecabe		○			
	モンキチョウ		Colias erate pollographus		○			
	モンシロチョウ		Pieris rapae crucivora		○			
トンボ目(蜻蛉目)	オニヤンマ科		オニヤンマ	Anotogaster sieboldii		○		
ハエ目(双翅目)	タマバエ科	エノキトガリタマバエ	Celticicis japonica Yukawa et Tsuda		○			
		キタヒメヒラタアブ	Sphaerophoria philanthus		○			
	ホソヒラタアブ	Episyrphus balteatus		○				
ハサミムシ目(革翅目)	マルムネハサミムシ科	ハマベハサミムシ	Anisobasis maritima		○			
ハチ目(膜翅目)	スズメバチ科	コアシナガバチ	Polistes snelleni		○			
	ミツバチ科	キムネクマバチ	Xylocopa appendiculata circumvolans		○			
バッタ目(直翅目)	オンブバッタ科	オンブバッタ	Atractomorpha lata		○			
		キリギリス科	ニシキリギリス	Gampsocleis buergeri		○		
	バッタ科	ショウリョウバッタ	Acrida cinerea		○			
	ヒシバッタ科	ハラヒシバッタ	Tetrix japonica		○			
出現種数				目名	10			
				科名	22			
				種名	41			

「大阪湾生き物一斉調査」データはホームページによる

*大阪府 RL：「大阪府レッドリスト 2014」、環境省第四次 RL：「環境省レッドリスト」H24.8、H25.2 公表